



★鹿兒島県育英財団「高等学校等奨学生予約募集」★

高等学校奨学生募集の案内です。募集は、進学前に予約する「予約募集」と進学後に申し込む「在学募集」があり、今回は「予約募集」の案内になります。

申し込み用紙や詳細の募集要項を希望される方は、早めにご連絡ください。(所得額証明書等の準備が必要になります。)担任の先生または進路指導担当の吉松に連絡ください。申し込み用紙をお渡しします。

校内の最終締切日を9月3日(月)とします。できれば8月21日(火)までに担任まで提出してください。(こちらで奨学生推薦書を作成いたします。)

< 参 考 資 料 >

奨学金の種類	募 集 人 員	公・私	通学方法	貸与月額
高等学校奨学金	780人 ・学力基準あり605人 ・学力基準なし175人	国公立	自宅	18,000円
			自宅外	23,000円
		私立	自宅	30,000円
			自宅外	35,000円

【趣旨】 この奨学制度は、学力及び人物が優れているにもかかわらず、経済的理由によって修学が困難な生徒に対して奨学金の貸与を行い、もって本県教育の発展を図るものである。

★「客家の教え」を知ってる?★

よく進路通信でも紹介したネタですが・・・「客家」、この漢字を読めた人はスゴイ!「ハッカ」と読みます。さて、どういう意味か分かりますか?実は中国南部に住む民族の呼び名なんです。イタリアのコロッセオのような円型の建物で、何軒もの家族が共同で生活をしています。孫文(そんぶん)をはじめとする優秀な人材を輩出(はいしゅつ)した中国でも有名な民族なのです。ここの長老がテレビ番組の取材に答えていた内容を紹介します。



Q 「なぜ、この小さな村から優れた人物が生まれたのですか?」長老いわく・・・

「隣の人に親切にしてもらっても、その人にお返しをしなければならない、という教えが伝わっているのだ。右隣の家の人に親切にされたら、反対の左隣の家の人に親切をしなければならないのだ」と。円型ドームなので、それを続ければ、いつの日か回りまわって自分に返ってくるというわけです。そういう「生き方」を実践して、多くの偉人を輩出してきたのです。

さて、こんなエピソードがあります。ある日本人留学生が、客家の土地でお世話になり、無事に留学期間を終えていよいよ帰国することになりました。家族全員でお別れパーティを開いてくれたそうです。お礼の挨拶の時、「日本に帰ったら、何かこの家の人たちが欲しいものを送りたい」と付け加えました。ところが、この家の主人から丁重に断られたのです。「我々があなたのお世話をしたので、ありがたいと思ってくれるだけで十分である。あなたから何かを贈ってもらうと、それで我々の友情は終わってしまうような気がする。あなたと我々の家族の間の心の交流はずっと永遠に続けていきたい。また、我々のうちの誰かが日本に行ったとき、はじめてあなたはお返しを考えればよいのだ」

「日本に行った時に」と言いつつ「そんなことは実際にはないだろうが」ということが前提になっています。「我々のうちの誰かが」というのは、家族に限らず「中国人の誰かが」という意味です。親切をされたらその人にお礼をしたくなるのは当然のことです。それを形にしたいから物を贈る。それも自然な気持ちです。でも、右隣の人に親切をされて、すぐに右隣の人に返したら、その親切は二人の間で完結して終わってしまいます。その親切を左へ左へとグルグル回す。そうしているうちに世の中がよくなる。ましてや、右隣の人は「親切を返してもらおうと期待して親切をした」わけではないはず。親切の輪を次へ次へと回していく。そうすることで、右隣の人、つまり中国人の家族の厚意は無限につながってどんどん大きくなっていくというわけです。

このように、客家の人々は先祖代々「客家の教え」を脈々と受け継いでいるのです。全部で18の教えがあるそうです。興味ある人は、調べて見て下さい! (^_^)v